

ああ 遠くの空は 晴れている



NO7

南箕輪村教育委員会

今回は、12月の定例議会で質問された 「不登校に関する教育長の考え」 を報告します。

質問順位5番 議席番号9番 唐澤由江 議員

件名 5 「いじめ・不登校対策を」

(1) 「古くて新しい課題」である「いじめ・不登校」に対する新教育長の考えは。

「答弁の要旨」 尾形教育長

○不登校について、私の考えを2点述べます。

1つは、現在不登校になっている子どもたちへのサポートをきめ細やかに継続していくことです。心身の不調で年間30日以上欠席の場合、文科省の調査では不登校になってしまうわけですが、1日も登校できない完全不登校の子どもはいません。登校すれば普通に生活できる子、別室なら学校へ来られる子、村の教育支援センターなら来られる子、家庭にいる割合が高い子、状況は様々です。

中学校では毎週1回、適応支援会議を開いて不登校傾向の生徒、不調な生徒、登校しぶりの生徒、学級になかなか足が向かない生徒らに対して、どんな支援や手立て、サポートが必要か考え、個別の対応をチームで行っています。

小学校では、学校生活アンケートや面談を通して、早めに不適応児童を把握し、その子に応じた支援を検討しています。私は、こういった、個々の児童・生徒の実態に応じて、具体的に、継続して、チームでサポートしていく体制を大事にしていきたいと考えます。

また、多様な子どもたちの新たな居場所づくりにも取り組んでまいりたいと思います。フリースクール等の外部機関との連携、こども館や村民センターの柔軟な活用、構想段階ですが、夏休み中の公民館各分館の一部開放（寺子屋的なもの）等です。村内の既存の施設の活用方法について柔軟に検討し、学校に行きにくい子ども

もたちの居場所づくりに努めたいと思います。

「子どもは変わる」「伸びるという一点で」・・・私が出会った子どもたちから教えてもらったものです。

「社会的な自立に向けて将来的な自己実現につなげていく」支援を、丁寧につづけていきたいと思っています。

2つめは、新たな不登校を生み出さない環境整備の推進です。

ユニバーサルデザインを取り入れた「わかりやすい授業」、自他の違いを認め合う「温かい学級づくり」、丁寧な教育相談の実施、小中連携の推進などですが、私は、特に教師側の対応力の向上に努めたいと思います。

○過敏性の強い特性をもった生徒に、強い口調の言葉で指導すると教師に恐怖感を覚え、教室から足が遠のきます。

○行動のペースがゆっくりの生徒などに、「早く」とか「きちんと」「みんな一斉に」という同調圧力の強い指導をすると、周囲と同じペースで生活できない自分を責めしまい、学校に行きにくくなります。

○見通しがもてないと不安を感じる生徒は、新しい環境に慣れるのに時間がかかります。行動の見通しを わかりやすく説明したり、見える化すれば、不安が減少して行動しやすくなります。

新たな不登校を生み出さない大きな環境の1つは、「教師の関わり方」であります。個々の子どもの実態に応じた あたたかでやさしい関わりがあれば、子どもたちは、安心してクラスで生活することができます。

教師からの指示・命令で動く環境、何でも一斉にという環境を見直し、ある部分は子どもに委ねて、子どもが自己選択する。自分でやることを決める。そんな経験、自分で判断して行動する体験等を取り入れ、自分の頭で考えて、自分らしく行動する力を育んでいきたいと願います。この方向性を大事にして、子どもたちにとって、一番過ごしやすい環境づくりを、学校の教職員の皆さんと共に取り組んでいく所存です。